

特集 ALTA(アルタ)療法

ご存知ですか？ 切らずに治せる いぼ痔の治療。

2011年7月から
ALTA療法を
開始しました

ALTA療法
いぼ痔ってどんな病気？

ALTA療法
痔と間違えやすい病気があります。

ALTA療法
「なんだかおかしい？」と思ったら、しっかり検査を！

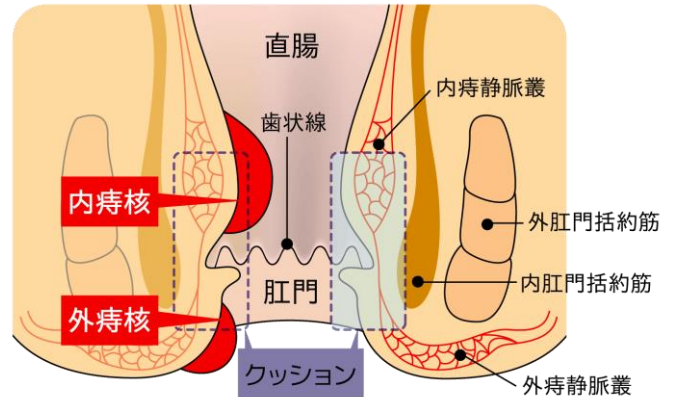
ALTA療法
ALTA(アルタ)療法って？

特集 ALTA(アルタ)療法

いぼ痔ってどんな病気？

いぼ痔(痔核)とは、肛門を完全に閉じるためのクッションが、排便時や日常生活でかかる負荷によって、はれてきた状態をさします。直腸と肛門の境界線(歯状線)より内側にできる いぼ痔を「内痔核」、外側にできる いぼ痔を「外痔核」と言い、排便時に出血するなどの症状が見られます。外痔核は痛みがありますが、内痔核は痛みがないため、出血や肛門から いぼ痔がとび出ること(脱出)で初めて気が付くことが多いのが特徴です。

■肛門の仕組みと いぼ痔(痔核)



特集 ALTA(アルタ)療法

痔と間違えやすい病気があります。

おしりから血が…「これって痔かな？」。

痔の症状かな？と思っても自己判断は禁物です。もっと重い病気のサインが隠されているかもしれないからです。

特に大腸がんは痔と間違えやすい病気です。症状は便に血が混じる、便秘や下痢が続く…など。「痔かな？でも、なんだかおかしい？」と思ったら、迷わず検査を受けましょう！

痔と勘違いしやすい病気

- ・ 肛門がん
- ・ 大腸がん
- ・ 大腸ポリープ
- ・ 潰瘍性大腸炎
- ・ クローン病
- ・ 皮膚びらん
- ・ 虚血性大腸炎
- ・ 大腸憩室症 など

特集 ALTA(アルタ)療法

全大腸内視鏡検査

「なんだかおかしい？」と思ったら、しっかり検査を！

全大腸内視鏡検査を受けることで、大腸にかかわる病気の早期発見につながります。

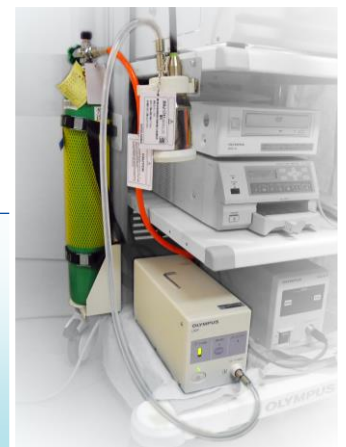
全大腸内視鏡検査とは

腸管をひろげ、カメラを肛門から入れて大腸の内側全体を観察する検査です。最初にカメラを大腸の一番奥(盲腸)まで入れて、抜きながら全体を観察していきます。

! 当院の検査は、おなかに楽な炭酸ガス(CO₂)を使用。

空気を腸管に入れてひろげる従来の検査では、検査中や検査後におなかが張って、苦痛を感じる場合があります。

炭酸ガス(CO₂)は空気と比べて生体吸収に優れており、拡張した腸管を速やかに収縮させ、検査中や検査後もおなかの張りが少なく苦痛が軽減されます。腹腔鏡手術などにも使用されており、人体への安全性が確認されています。



内視鏡用炭酸ガス送気装置 (オリンパス社製)

ALTA(アルタ)療法って？

ALTA = Aluminum Potassium Sulfate Hydrate・Tannic Acid
有効成分の頭文字をとってALTA（アルタ）と呼ばれています。

ALTA療法で「切らずに治せる いぼ痔の治療」が身近なものになりました。

痔の治療法には、その症状に応じて「薬物療法」「手術」「注射療法」などがあります。

今回ご紹介するALTA療法は、内痔核に効果のある注射療法^{※1}で、いぼ痔（痔核）に直接薬剤を注射することで血流を悪くし、いぼ痔の周囲組織に炎症を起こします。結果として、出血を抑制したり、いぼ痔を縮小させ、脱出を無くしたりすることができます。

以前の注射療法は、長期的な持続効果が期待できず、一時的な処置といった意味合いが強いものでしたが、近年より効果のある注射剤を注入し、根治させることも可能となりました。

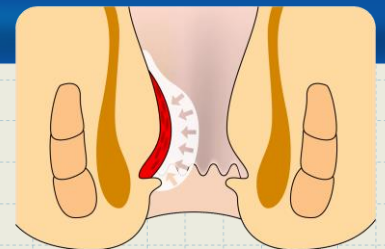
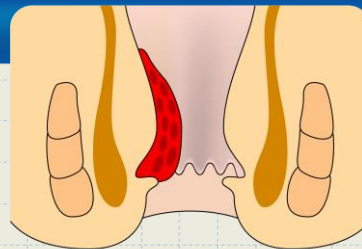
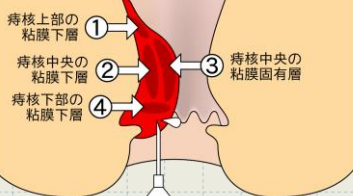
ALTA療法を行えるのは、資格を持つ医師のみとなるため、南加賀で対応できる医療機関は限られています。

ALTA療法には、皆さんにお伝えしたい
たくさんの「良い点」があります

- ① 身体的・精神的負担が軽減されます
→結紮切除術などと比べ、痛みや出血が少なく、治療に要する時間も短い。（治療時間約20分）
- ② 入院期間が短くなり、時間的・経済的負担が軽減されます
→手術日を入れて3～4日で退院が可能。
（手術後、1～2週間、1ヶ月、3ヶ月後の計3回、経過観察のための受診が必要となります）
- ③ 抗血小板剤・抗凝固剤を中止する必要がありません
→服用中のお薬を中止することによるリスクがない。

ALTA(アルタ)療法

治療経過のイメージ



最初に、肛門周囲に局所麻酔を行います。

1

ひとつの痔核に対して図のように4か所に分割して投与します。

2

投与後の早い時期に痔核へ流れ込む血液の量が減り出血が止まります。

3

投与した部分が次第に小さくなり、1週間～1か月で脱出がみられなくなります。

4

※1：外痔核など、ALTA療法が適さない痔の症状もあります。

ALTA療法は、適応を選べば患者さんにとって非常に効果的で負担の少ない治療法です。

「痔の治療は痛そう…」と考えて、肛門の悩みを我慢されている方、ぜひ一度、診察にいらしてください。

まえだ つとむ
外科部長 **前多 力**
日本大腸肛門病学会専門医

Doctor.

